

# Smile 通信



平成23年10月 編集・発行／埼玉県住まいづくり協議会

〒330-8516 さいたま市浦和区仲町3-12-10(埼玉県住宅供給公社内)

TEL 048-830-0033 ホームページアドレス <http://www.sahn.jp>

秋田家の磨りガラス窓

## CONTENTS

- シリーズ埼玉の住まい  
県西の中核都市 所沢 ..... 表紙、2、3頁  
住み心地の良いまち大賞 発表 ..... 4頁  
情報普及部会平成23年度第1回講演会より  
本庄早稲田スマートエネルギー  
タウンプロジェクト ..... 5頁  
平成23年度 第1回理事懇談会 ..... 6頁  
長期優良住宅先導事業 採択 ..... 7頁  
平成23年度住生活月間シンポジウム ..... 8頁

VOL.45



あつたことを示す太い梁。洗い出しえの建物は大正末に東京から大工出

を呼び建設したものという。一階の応接間の窓は半円アーチ、上げ窓のスタイルでなつかしい。

下げる窓のスタイルでなつかしい。ところで所沢には国の重要文化財の建造物が三件ある。いずれも市内からかなり離れているが、そのうちの二件が住宅である。

**住宅**。十八世紀の開拓農家の三間取り広間型の典型。低い軒に、質実がつた木をそのままに柱にもちいた素朴味溢れる構造。東日本に特有の「くれぐし」という茅の屋根に杉皮をひき、芝土おいてアヤメを植えた姿には眼がひきつけられる。

一つは市の西端にある**小野家住宅**。十八世紀の開拓農家の三間取り広間型の典型。低い軒に、質実がつた木をそのままに柱にもちいた素朴味溢れる構造。東日本に特有の「くれぐし」という茅の屋根に杉皮をひき、芝土おいてアヤメを植えた姿には眼がひきつけられる。

**伊豆井秀一**（いづいいひでかず）昭和二十四年生まれ。埼玉県立博物館、埼玉県立近代美術館、埼玉県教育局生涯学習課を経、現在埼玉県立近代美術館専門員兼学芸員。専門は日本近・現代美術。著書に『昭和の美術』（共著 毎日新聞社）、『小茂田青樹画集』（共著 日本経済新聞社）など。

いる。今流にいえばアヤメハウスといつたところか。

もうひとつは市の東端、柳瀬地区にある電力王松永安左工門、耳

おきたい。北部の三富新田には開拓の歴史とともに農民の生活をみつめてきた医院の建築があることも記しておきたい。

平成十四（二〇〇三）年に市で発行した『所沢たてもの帳』に掲載された建物は、八年後の今、急速に消えつつある。所沢の変貌は著しい。



柳瀬山荘 斜月亭

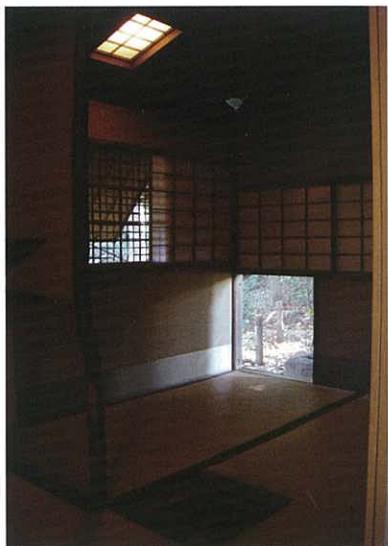
柳瀬山荘 黄林閣



小野家住宅



小野家住宅 屋根



柳瀬山荘 久木庵



柳瀬山荘 黄林閣

# 県知事賞は 大島さん

「浦和区調自治協力会～  
小学生が活躍できる、  
住み心地の良いまち～」

第7回目となる埼玉住み心地の良い  
まち大賞の審査会が、9月27日にさい  
たま市浦和区で開催されました。

今年の応募作品数は807点。過去  
最多の応募作品の中から、埼玉県知事  
賞、埼玉県住まいづくり協議会会長  
賞、審査委員長賞を各1点、優秀賞を  
40点選出しました。

表彰式は、10月22日にさいたま市浦  
和区の埼玉県県民健康センターで開催  
されます。

また、10月13日～18日には、浦和バル  
コ9階のさいたま市市民活動サポート  
センターで、また、表彰式前日の21日  
には、浦和コルソ7階ホールで開催さ  
れる「住生活月間シンポジウム」の会  
場で、入賞作品展覧会が開催されま  
す。（入場無料）



まず、平成23年3月11日に発生した  
東日本大震災で亡くなられた方々、ご  
遺族の方々、被災された方々に謹んで  
お見舞いを申し上げます。この震災は、  
多くの人々の命を奪うだけでなく、私  
たちの生きる礎である「まち」に大き  
な傷跡を残しました。

住みなれた「まち」を奪われた被災  
者の方々を思うと、今も心が痛みます。  
そのような中、埼玉720万県民は、  
被災地を思い、様々な支援の手を差し  
伸べています。これからも、被災地の  
「まち」の再生のため、私たち一人ひと  
りができる支援をしていきましょう。

さて、「第7回埼玉住み心地の良い  
まち大賞」は、応募作品807点とな  
り、昨年に比べ応募数が大きく増えた  
だけではなく、作品のレベルも一層上が  
つているという印象を受けました。

その中で、埼玉県知事賞の栄誉に輝  
いたのは、大島桃子さん（小学5年生）  
の「浦和区調自治協力会～小学生が活  
躍できる、住み心地の良いまち～」、  
協議会会長賞に選ばれたのは、山下優  
加さん（中学2年生）の「自然あふれ  
る北本市」です。

大島桃子さんの作品は、様々なまち  
の行事を通じて、地域の方々が町ぐる  
みで子どもたちをバックアップしてくれ  
ている、そんな「まち」への感謝を  
描いた作品です。私は、住民の暖かさ  
を感じさせる行事の風景とともに、手  
作りの立体的な地図を用いて表現した  
独創的な作風を評価しました。

山下優加さんの作品は、北本市の良  
さを盛りだくさん描いています。山  
下さんは、北本市に引っ越してきました  
のこと。新しい自分の「まち」で发掘・  
発掘・開拓する姿勢が、とても印象的  
でした。

## 審査委員長講評

埼玉新聞社取締役会長 丸山 晃

皆さんはから寄せられた「よいまち」は、  
2914点を数えます。これは、埼玉  
がいかに魅力あふれるところであるか  
を証明するものであると同時に、ご応  
募いただいた方々をはじめ、小学校、  
中学校の関係者の皆様や親御様、協賛  
企業の皆様のご支援・ご協力の大きさ  
でもあります。

関係者の皆様には、深く感謝を申  
上げますとともに、これからもご理解  
とご協力をいただきますようお願い申  
し上げます。

発見した魅力を余すことなく描いた作  
品からは、清々しい郷土愛を感じます。  
また、審査委員長賞に選ばれたのは、  
青山弥生さん（中学2年生）の「中山  
道の歴史」で、与野駅から大宮駅の間  
にある地蔵や史跡、神社を描いたもの  
です。この作品テーマに決めたのは、  
このまちに長く住んでいる祖父と祖母  
から、まちの歴史を教えてもらったこ  
とがきっかけとのこと。青山さんは、  
昔のまちを聞き、心躍らせ今のまちを  
歩き、未来のまちに思いを馳せて、こ  
の作品を描いたことでしよう。

この3作品に共通するのは、思わず、  
次の休日にこれら的作品をガイドブッ  
クにして、描かれた「まち」を探検し  
てみようかと思わせるような、不思議  
な魅力があるという点です。もし、皆さんも同じような衝動に駆  
られたら、是非足を延ばしてみてくだ  
さい。そこには、作品に描かれた素晴  
らしい「まち」のほか、作品では語ら  
れていない新たな発見が待っているか  
もしれません。

平成17年の第1回目から今までに、  
皆さんはから寄せられた「よいまち」は、  
2914点を数えます。これは、埼玉

# 本庄早稲田スマートエネルギー タウンプロジェクトの目指すもの

早稲田大学環境総合研究センター 准教授

小野田 弘士 氏

## 住まいにおける エネルギー供給の視点

## エネルギーの共有インフラ化

今回の東日本大震災で、地震や津波の大被害があつた反対側の、山形県で亡くなつた女性がいらっしゃいます。なぜ亡くなつたかというと原因は停電です。停電で人工呼吸器がとまつてしまつて亡くなつたのです。こういう事態を、家を供給する立場から考えないといけないので電力はこれまで、空氣みたいな存在で付ければ来るというようなものでしたがこれからは家を建てるときも、電力が来ているのは当たり前だという前提が通用しなくなってしまいます。

例えばコンセント1つの容量とか、コンセントにどういう機器がつながる可能性があるか、本当に遮断していいものなのかというところを考えておく必要があると思います。

3・4月の計画停電でも、停電になつてしまふとガスのインフラは生きていてもガス給湯器が動かないとか、ポンプがとまつてしまつて水が来ないとか、あるいは自分のエリアは大丈夫でも、水を供給しているサイドが停電になつてしまつて水が来ないということがありました。

エネルギー供給をどう考えるかが整理されていません。これから家をつくるときには、その中にどういう人たちが住むのかということも考え、どういう電源を用意しておけばいいか考える必要があります。

例えば人工呼吸器の話に関しては、非常用の蓄電池がつないのであって、それがソーラーパネルで充電できるようなスペックにしておくといふだけで、結果も違つたかもしれません。

結局、人がどのくらいのエネルギーを必要としているのか、それを住宅を建てる段階から考えなければいけない時代になつてきたと思います。

電力はこれまで、空氣みたいな存在で付ければ来るというようなものでしたがこれからは家を建てるときも、電力が来てるのは当たり前だという前提が通用しなくなっています。

電力はこれまで、空氣みたいな存在で付ければ来るというようなものでしたがこれからは家を建てるときも、電力が来てるのは当たり前だという前提が通用しなくなっています。

## 電気自動車と カーシェアリング

緊急時にある程度生活できるようなスペックを確保していくましょうとか、あるいは地中熱の問題です。地中熱というのは、単独でやるだけだと、どうしてもエアコンをがんがん使う人でないと余りメリットはないという数字が出てきます。しかし、ますます共有化して、みんなで使えるような形の整備の仕方を考えられないだろうかとか摸索しています。

ソーラーパネルを設置したものを売る、それを全部住宅の価格にオンするという感覚ではなくて、欧米で当たり前のようやられている、エネルギーサービスを提供するという感覚にシフトしていくということです。

それに加えて、私のところでは1人乗りの電気自動車を開発しています。

例えば近隣を移動する手段も含めて住宅の一部ですよといふうに思つてています。

皆さんのがマイカーを1台必要だとするとセカンドカーは近隣の移動用で小さいもので済むのですが、結構大きい車を買つてしまつているというケースがこれまでの調査でわかつてきています。

だったらもう2台目は、小さい1人乗りで充分。商業施設にまで買い物に行けるようものが、住宅に初めから入つていてのみ

たいなところもカーシェアリングです。これからは人が、エリアでの人の移動するかということの観点から、それに対応必要な最適台数を割り出します。それなく、むしろエリア全体の中で住宅とインフラがどういうポジションにあるのかということを考えいかなければいけません。共有可能どころは共有のインフラとして持ちたい。例えば、ごみ置き場をつくり、そのごみ置き場をソーラーパネルで囲つて、そのわきに蓄電池をつけます。その蓄電池をそれぞれうまく配線して、

## 本庄早稲田という 地域の特性を生かして

本庄早稲田エリアでは、実際売れる住宅をつくるという前提の中でトライアル的なことをやりながら、その住宅業界の方々が、次にほかのエリアでも展開できるようなスキームを、ここでいろいろ生み出していくかと考えています。

当面その住宅の部分で民間企業さんも巻き込みながらそういうスキームを動かして、一つのパッケージモデルをこのエリアでつくりたいと思います。

本庄早稲田という地域の特性を生かして、た一つ次の世代の住宅をつくり、ここに住めば安全、安心で、かつ結果的に再生可能エネルギーをたくさん入れることによって、住む人にメリットを返してあげないといけないということです。

具体的に、光熱費がすごく安くなりますが、このエリアに進出してきた事業者には、放つてもCO<sub>2</sub>排出量がものすごく下がるというような形で、メリットを直接見せられるような仕掛けをどんどんつくつて行きたいと思つています。

そういう意味でこれを契機に大きく住宅というもののあり方が変わつてくるのではないかと感じています。

まさにそれを、ちようどいろんなことを実験できるようなフィールドが埼玉県の本庄にあります。その中で積極的に事業を開拓して皆さんと接点ができればと思います。

**宮沢俊哉会長** (株式会社アキュラホーム 代表 取締役)

会員数を増やすことが必要である。そのためには、会のメリットを増やし、メソットがあるから会員さんが増え、そして理事会さんも増やし運営がよくなるよう進めたい。(まちづくりについて)皆様で協力しだきなまちづくり(モデル都市)計画をしてはと思う。

長期優良住宅先導事業については、皆さんで盛りたてて、協力してやっていくようにお願いしたい。

**大久保浩成副会長** (株式会社中央住宅 取締役 会長)

お客様にこの住宅を買ってくださいと言るのは、駄目である。お客様から譲つて欲しい、売つて欲しい。そう言わしめる様な商品を作り続けていかなければ。

埼玉に住みたい住宅を作るのが、我々の使命である。埼玉いい町、いい県、そこに住みたい、住まわせてほしい、ぜひひ1回に住みたいという形で住宅・住環境づくりに取組んでいきたい。

**山本拓巳副会長** (株式会社OKUTA 代表 取締役)

震災を契機にこれまでの協議会活動の評価が高まります。ボジションを得るようと思われる所以で、さらに役にたてる協議会平成23年度第1回理事懇談会が、25名の理事・正副委員長が出席して開催されました。

**宮沢会長** (株式会社アキュラホーム 代表 取締役)

これまで、快適に暮らすようにし、エネルギー政策については過渡的な所にある。この会が1社でやるのはなく、民間と行政が一体となつてその地域がどううビジョン(将来構想)をもつてモデルを作つていく会になればすばらしいと思う。埼玉県が全国に先駆けて実績を作つていけども心地の良いまち推進委員会、酒井副委員長から住宅リフォーム推進委員会、伊藤専門副委員長からマンショングループ委員会・情報普及部会、川井副委員長から広報部会、北澤専門委員長から埼玉住み心地の良いまち推進委員会、酒井副委員長から住宅リフォーム推進委員会、伊藤専門副委員長からマンショングループ委員会の活動について、報告と説明がありました。当日の議論の一部を発言順に紹介します。

さらに後半、懇談会に移行し、協議会活性化に向けての自由な意見交換が行われました。当日の議論の一部を発言順に紹介します。

住宅をよくする熱気があり、この協議会はすばらしい。住宅金融支援機構は、皆様の供給する住宅に住まわれるお客様に相応しい住宅ローンを提供し協議会に貢献したい。

時代はものづくりの時代ではない、住宅の目に見えないもののコミュニティ・環境・子育てなど生きがいであつて、目に見えないのが私達の仕事でその認識し、国交省・私達の業界にもなかつた。建物より頑丈な建物がよい売れ筋が良い、マンション・建完を作つていった。

**鈴木静雄理事** (株式会社リブラン 取締役会長)

住宅の目に見えないもののコミュニティ・環境・子育てなど生きがいであつて、目に見えないのが私達の仕事でその認識し、国交省・私達の業界にもなかつた。建物より頑丈な建物がよい売れ筋が良い、マンション・建完を作つていった。

当社では、賃貸の2番バッターで新しい考え方をこの会でお話し出来ればと思う。1年あれば住宅のセーフティネットで被災者を受けられるが、これからの方々が対応機能するだろうと期待する。

**中内啓夫理事** (株式会社中央ビル管理 取締役)

1年あれば住宅のセーフティネットで被災者を受けられるが、これからの方々が対応機能するだろうと期待する。

**保科隆史監事** (株式会社武蔵野銀行 営業推進部長)

初めて参加させてもらった。まちづくりを考えてあります。

**笠原高治相談役** (株式会社中央住宅理事)

私はして、メリットとは金儲けの話で浸透させたいと思う。また、会員を増やすのも一つあるが、協議会があるといふことで告知し、協議会は何をやつているのか、協議会があるぞと県民の方にアピールして貰いたい。

**居野上直鄧理事** (積水ハウス株式会社 営業本部企画部長)

これから高齢者が増えていく世の中、若者がどんどん減っていく社会で埼玉に生まれて本当によかった、それをひっぱつてきてきたことがあります。そこで、それをひっぱつてきてきたことがあります。そこで、それをひっぱつてきてきたことがあります。

**高野政次名譽会員** (ミサワホームイング株式会社 西関東支店長)

協議会は品位がなくなる。会員のメリットについては、そういうたるメンバーと話しが出来るのが最大のメリットである。

**武井啓明運営委員長** (株式会社アキュラホーム 経営企画室次長)

協議会は外に対するアピールの内容もあるが中に入っている人たち同士のコミュニケーションを超えて、男女の差を超えてコミュニケーションが出来る良い場である。感謝する場を外にも作りながらも良い会場となつて来ている。

**川井正仁副運営委員長** (埼玉県中小建築業協会専務理事)

15年間を振り返り協議会のメリット、デメリットはあるが、会員とのお付

# 活性化議論百出

## 理事懇談会開催

8月26日さいたま市

**小松原明理事代理** (一般財団法人さいたま住宅検査センター 常務理事)

環境建築住宅賞は応募が少數だとなかなか予算が取れないとの話なので、センタとして顧客の皆様に制度の紹介をしながら積極的に応援して参りたい。

**城野敏江理事** (独立行政法人 住宅金融支援機構 埼玉センター長)

普通は官が主導であるが民間の考え方で



理事懇談会出席者（正副会長を囲んで）

# 埼玉県住まいづくり協議会のリフォームシステム 「Re・ism(リズム)」が、国土交通省の 長期優良住宅先導事業に採択される

協議会会員が今年度手がけるリフォーム工事に、  
1件当たり最大200万円が国から補助されます

リフォーム事業推進委員会  
委員長 酒井裕三

平成20年度よりスタートした国土交通省の長期優良住宅先導事業に、住まいづくり協議会が応募したリフォームシステム「R e · i s m (リズム)」が採択されました。

今年度協議会会員が手がける、最多70件のリフォーム工事に対し、一件当たり最大200万円の補助金が交付されます。国土交通省から評価された、リズムの概要をお知らせします。

## 1、倫理憲章からなる委員会方針と、

これは消費者視点に立ち、本委員会が具体的にどのような思いを持って事業を取り組んでいる事を明文化し、健全な事業形態を示しているものです。

### 3. 住まいづくり協議会の組織のリソース活用

住宅リフォーム推進委員会の定期講習会の開催や、毎週土曜日開催の大宮駅前会場での消費者向けリフォーム相談窓口の開催、防犯アドバイザー制度の防犯スケッチャの配布、情報普及部会が運営している住月間シンポジウムでの見える化良いまち大賞や環境建築住宅賞への参加金融機関会員の、会員特典商品の提供など、住まいづくり協議会は消費者に対し家守り、街守りのハブ的な役割を果たしています。

3・11以降の家造りに対する取り組み  
住宅・建築の在り方は、我々に大きな試験を  
を与える事になりました。また新築と違  
リリフォームは既存状態によって性能向上  
に対する限界がありコストにも反映します。  
建物には性能があるという事を、事業者  
だけでなく、消費者に対しても深い理解を  
求めていかなければならぬ一方で、優良  
事業者の育成、悪質な事業者を排除してい  
けるような「しくみ」の構築が求められて  
います。

このように住まいづくり協議会の存在意義を明確にした上で、消費者の視点に立った取り組みを具体的に示した内容が、本委員会が推進する長寿命化リフォームの指針であり、今後の委員会が目指す新たなビジョン構築にも繋がっています。

3つの信条

方を提案・創造する

①、長期に渡り住宅の性能、資産価値を維持・向上できるよう、本会が奨励する事業活動及び、基本性能に伴う設計・技術方針を構築する。

②、登録事業者相互間の知識・技術な

③定期講習会等を通じて、主体的に勉強会を重ね合い、強い責任感と使命感を持つて取り組む。

④顧客サービスを重視した有益な情報を開示し、適正な価格で明瞭な見積を提示し、信頼を得る健全な事業経営を目指す。

共同管理士会 理事長  
共同住宅では、公団（都市再生の分譲の古いマンションの建て替へが多くなる。工事について県内

**古里美副運営委員長**（埼玉県住宅供給公社 常務理事） 宮沢会長、大久保副会長の埼玉をよくする、良いまちを作つて行くとのお話を、笠原相談役が品位ある会を開く、と、いうことに感動している。事務局としてがんばりたい。

**北澤芳彥専門委員長**（株式会社中央住宅 経営企画部広報室係長） 防犯アドバイザー申請のステッカー事業は早期に進めたい。良いまち大賞の協賛については、参加して頂けなかつた各企業さんからの今後のご協力を願いたい。

き合いのメリットがあり、お二人方（笠原相談役・高野名誉会員）から得た刺激が尊い。それは活性化に繋がるとは別であるが、それをこえるものがある。  
**福島直樹副運営委員長**（株式会社高砂建設専務取締役）  
本庄スマートエネルギータウンについて我々高砂建設も参加して開発した工コ住宅を活用する計画である。高砂建設ではスマートハウス・交通システム・バイオマス商業施設等プロジェクトに参加している。今後再生エネルギーを使つてまちづくりを進める。スマートハウスが先行していく。URでは分譲地で協同購入を目指し計画を進めている。今後、埼玉県を理想都市としたいと考えである。

**酒井裕三副運営委員長**（株式会社OKUTA取締役執行役員）  
長期優良住宅先導事業についてはたいいへんなフレッシュヤーがあつたが、立上げについてはローキヤで進んできた。また、早めの消化が必要になるので、皆様の協力を願いたい。年度末には大変な業務があるので今年もがんばつていきた

き合いのメリットがあり、お二人方（笠原相談役・高野名誉会員）から得た刺激が尊い。それは活性化に繋がるとは別であるが、それをこえるものがある。



平成23年度  
住生活月間シンポジウム

平成23年

10月21日(金)

13時15分～16時30分  
(開場は12時30分)

コルソホール  
浦和コルソフF  
(JR浦和駅西口前正面)

コルソホールは地下に駐車場がありますが有料です。  
ご利用の方は各自でご負担ください。

# 東日本大震災を教訓として これからのはまいを考える

## 第1部

東日本大震災後の住まいづくり  
～耐震改修のすすめ～

財団法人 日本建築防災協会 専務理事  
杉山 義孝 氏

## 第2部

再生可能エネルギーを活用した  
これからの住まいづくり  
～住まいの創エネ・省エネ・蓄エネ～

株式会社 光と風の研究所 常務取締役  
鈴木 孝雄 氏

## 同時開催

- 第7回埼玉住み心地の良いまち  
大賞 入賞作品展
- 第3回埼玉県環境建築住宅賞  
(住宅部門)応募作品展
- その他、エコや長寿命リフォーム、  
に関する実例集

入場  
無料

[お問い合わせ・申込先] 事務局 (埼玉県住宅供給公社内) TEL 048-830-0033

※受付時間 : 8:30～12:00、13:00～17:00 (月～金)

後援／埼玉県、国土交通省、住宅金融支援機構首都圏支店、都市再生機構埼玉地域支社

主催:  埼玉県住まいづくり協議会